

24 年度 氷見市教育総合センターだより 第 5 報

メールアドレス kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp

ホームページアドレス <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg00000416.htm>

不登校・長期欠席を減らすには part1

平成 24 年 6 月に国立教育政策研究所から発刊された「不登校・長期欠席を減らそうとしている教育委員会に役立つ施策に関する Q&A」のポイントを 2 回に分けて紹介します。

1 新たな不登校を生まない取組を進める必要性

これまでは不登校になった児童生徒に対するケアを中心に取組が進められてきたが、それだけでは不登校・長期欠席の減少につながっていない。文科省統計の年度による不登校・長期欠席児童生徒の総数にあまり差がないことがその事実を裏付けている。

2 「初期対応」の取組を進める（中 1 不登校調査 生徒指導研究センター H13～14 を基に）

表 1 のように小学校時代 3 年間の欠席日数を分析し、「不登校相当」という指標を設け扱っていく。次に表 2 のように分類し、「経験あり」群に分類された児童生徒については、1 日か 2 日休んだだけでも教職員が対応できるように準備をする。

表 1：「不登校相当」・「準不登校」の基準

| 区 分 | 小学校 4～6 年各学年の状況 |
|---------|---------------------------------------|
| 「不登校相当」 | 欠席日数+保健室登校日数+(遅刻早退日数÷2)=30 日以上 |
| 「準不登校」 | 欠席日数+保健室登校日数+(遅刻早退日数÷2)=15 日以上 30 日未満 |

表 2：小学校時の欠席状況の分類とその基準

| 区 分 | 小学校 4～6 年の 3 年間を通じての状況 |
|------------|--|
| 「不登校経験あり」群 | ・ 3 年間の間に一度でも「不登校相当」に該当した者 ・ 3 年間とも「準不登校」に該当した者 |
| 「不登校経験なし」群 | ・ 3 年間とも「不登校相当」、「準不登校」のいずれにも該当しなかった者 |
| 「情報なし」群 | ・ 小学校からの情報提供（小 6 時のもの）がなかった者 |
| 「中間」群 | ・ 上記以外の者 |

※ 中学校 1 年生で不登校になった生徒の半分が「不登校経験あり」群であったこと。また、「経験あり」群は、「経験なし」群に比べて、年度の早い時期（5 月頃から）から休み始めることが中 1 不登校調査から明らかになっている。また、「経験なし」群は、10 月頃から休み始める傾向にある。

3 「未然防止」の取組を進める

・「心の問題」としてのみ不登校を捉える姿勢を改める

① 対人関係の改善

- (1) 苦手意識の克服
(2) 自己有用感・自己存在感の獲得



学校行事や体験活動の機会を積極的に生かして対人関係の改善を図り、自己有用感・自己存在感を児童生徒自身に感じとらせる教育活動を準備する。学校レベルでの取組が大切。

② 学習面の改善

- (1) 「分かる」授業の実施
(2) 習熟度別・少人数の授業の実施



「分かる授業」を実施したり、補充指導の充実を図ったりする等、基礎・基本の確実な習得のためのきめ細やかな指導を推進する。

・魅力ある学校づくりを進める。

- ① 学級や学校をどの児童生徒にも落ち着ける場所にしていくこと（「居場所づくり」を進める）
② 日々の授業や行事等において、すべての児童生徒が活躍できる場面を実現すること（「絆づくり」を進める）



学校生活の中で圧倒的に大きな割合を占める授業場면을改善することが何より大切

問題に対処するという「治療」の発想に染まり、結果的に「教育」がおろそかになっていないか見直し、新たな知恵も加えて「授業づくり」や「集団づくり」を進めることが「未然防止」である。

小中連携教育学力向上研修会

7月26日(木)実施

小中学校の教頭または教務主任を対象に標記の研修会が行われた。

前半は、県学力向上推進チームによる「学力向上サテライト研修」、後半は「小中連携教育の推進に関する協議等」が行われた。前半の研修では、「全国学力・学習状況調査」結果の各校の分析の仕方と各校配布のCD-R「授業改善のヒント」の活用の仕方の説明があった。後半では、小中連携教育の意義と現状や生徒指導・生活指導上の連携についての説明の後、各中学校区間で1学期の小中連携の取組の反省や今後の取組について話し合った。

参加者の声 アンケートより

- ・「教師の意識改革」という言葉が印象的だった。教えていただいた学力調査の分析方法やそれを生かした授業改善等を校内研修会で研修し、意識改革に努めていきたい。
 - ・小中連携について話し合う機会が設定された研修会は、有意義であると感じた。
 - ・学力向上と生徒指導との関係、学力向上と小中連携の必要性が分かりやすくまとめられていた。小中学校間、小学校間、学年・学級間での学習・生活ルールの連携が大切であると感じた。「3つの『I (アイ)』を大切に！」のキーワードを学校職員に伝えたい。
- ※3つの「I」(Interaction Intelligence Interest)



教育セミナー

演題 「心の豊かさと活力を育てる道德教育」

～学習指導要領本格実施の今、求められるもの～

講師 東京学芸大学 教授 永田 繁雄 先生

7月27日(金)実施

各校1/2の先生方が参加し、永田先生の講演を拝聴した。

「道德教育とは、…」 「道德の授業とは、…」 の日頃の疑問に新たな答えをいただけた講演だった。

参加者の声 アンケートより

- ・誠実で熱意あふれる話し方に引き込まれて考えながら聴くことができた。しなやかでたくましい心を育てることの大切さや問題意識を道德でも重視することを再確認できた。
- ・先生の話の聴いていると、自分がしている道德の授業がいかに生徒のためになっていないのかととても情けなくなりました。もっと、生徒同士がディスカッションできる道德、葛藤できる道德の授業を実践していかなければならないと反省しました。
- ・『『これって道德なの?』と問われるような授業をしたらしめたもの』という先生の話が印象的だった。冒険運転を意識しながら資料開発や指導法研究をしていきたい。
- ・「校長は方向を示すキャプテンであり、道德教育推進教師はナビゲーターである。」「道德は国語と違い、主人公の立場で生き方を考える」等、学ぶことが多かった。

仲間に学ぶ研修会

講師 久目小学校 山崎 里美 先生

南部中学校 濱井 孝久 先生

8月3日(金)実施



内地留学者を講師に迎え、市内小中学校の41名の若手教員が参加して行われた。

山崎教諭からは、「対話を重視した学び合い学習」と題して、対話体験を交えながら「対話とは何か」、「対話する子どもの育て方」などについての話を聴いた。また、濱井教諭からは、「望ましい行動変容を促す心理学的研究～『叱り』と『カウンセリング』について～」と題し、どのような「叱り」がよいかについてのグループ協議を交えながら、話を聴いた。

参加者の声 アンケートより

- ・「教師自身、子どもを引きつける努力をしていますか」と聞かれた時ドキッとした。話題を選定することはすごく難しいなど普段から思っていたが、子どもを聴きたい、話したいという気持ちにさせるにはやはり大切なことなのだと改めて痛感した。授業や日常生活で対話の場面をうまく取り入れて、子どもに関わり方を教えていきたい。
- ・授業や休み時間に、今まで子どもたちに寄り添って話を聴いていたのかと自分に問いかけてみると、そうでない場面がとて多かったと思う。自分が子どもの話をしっかり聴かないで、子どもたちに話を最後まで聴くことを求めるのは、無理があったと反省した。
- ・「叱り方」について研修することがなかったので、今日の研修内容は大変参考になった。社会に出ても立派にやっていける人物を育てるためには、時には厳しく叱ることも大切だと改めて感じた。生徒のためにどれだけ本気になって向き合いぶつかっていけるのか、それができる教師が生徒にとってよい先生なのと思った。
- ・「怒る」と「叱る」の違いについて触れていただき、タイムリーに叱ることが大切、スルーしてはいけないということが胸に響いた。「よい叱り」ができるようになりたい。

生徒指導研修会

講師 氷見警察署生活安全課係長 高岡警察署少年警察補導員

不登校児童生徒の理解を深める研修会

演題 「不登校理解の知と心」

講師 上越教育大学 准教授 稲垣 応顕 先生

8月9日(木)実施



前半の「生徒指導研修会」では、全小中学校の生徒指導主事・養護教諭が参加し、警察の方から生徒指導上の課題について話を聴いた後、中学校区ごとのグループに分かれて生徒指導に関する情報交換を行った。

後半の「不登校児童生徒の理解を深める研修会」では、上越教育大学の稲垣先生を講師に迎え、不登校児童生徒の心理状態の理解についての講話を聴いた。

参加者の声 アンケートより

- ・警察の方から見せていただいたDVDがとても分かりやすい内容でした。指導するものが生徒を取り巻く様々な誘惑について正しい知識をもち、生徒の相談に対応できるようにしておくことが大切だと思った。また、生徒が犯罪に巻き込まれることのないよう、学校でもこのような指導を計画的に行う必要性を感じた。⇒氷見署にお願いすれば、DVDを貸していただけるそうです。担当：生活安全課
- ・不登校の子どもにどう対応するか悩むが、まずはその子そのものを知ることが大切なのだと感じた。また、いじめ問題は「いじめている子」を変えることが大切。今日教えていただいたどのタイプに当てはまる子どもなのかを理解してから、対処法をしっかりと考えて指導に当たりたいと思う。
- ・「過去は未来を決めるわけじゃない。今、現在の君がどう生きるかで未来が変わってくる」稲垣先生の話は、何度聴いてもうなずける内容ばかりだった。現在関わっている不登校の生徒もなかなか前へ進めない状況にあるが、これからも生徒の心に寄り添い、粘り強く支援に努めたい。



ふるさと教育研修会 8月10日(金) 難

講師 氷見漁業協同組合参事 広瀬 達之 先生
氷見市立博物館館長補佐 大野 究 先生

本年度新規採用教員、転入教員を対象に「ふるさと教育研修会」を実施した。

<主な日程> 7:00~8:00 市場や施設の見学、説明⇒8:00~8:40 市場食堂での朝食⇒教文センターへ移動
9:00~10:20 市立博物館展示の解説・自由見学⇒10:30~11:30 全体協議

参加者の声 アンケートより

- ・子どもたちにふるさとのことを知ってもらうためには、自分がまず氷見のことを知らなければならなかった。氷見にはたくさんの文化財などが残されているので、時間があるときに一つ一つ巡ってみたいと思った。また、実際に自分の目で見ることの大切さを改めて感じた。
- ・全体を通してみると、氷見には多くの教材があると思った。それをどう生かすことができるかは教師にかかっている。氷見というフィールドを生かして郷土や文化を学び、氷見を愛する子どもたちを育てていきたいと思った。
- ・氷見で生まれ、氷見で学んでいるはずなのに、今回の研修会で多くのことを学ぶことができた。
- ・1学期は、とにかく学校に慣れることや日々の教科の教材研究に追われ、総合的な学習の時間の氷見調べは先輩の先生方に頼ることが多かった。2学期以降は氷見の名所や文化財など自分自身が興味をもって学び、子どもたちの前でも氷見の話をとくさんできるようになりたいと思っている。
- ・今回の研修会のように、見学場所を絞ってじっくりと学び、後は写真や地図で教えていただいた方が、行って見たいという気持ちになるように思った。

🐾🐾 新 ALT Lauren Schwegler の紹介 🐾🐾



はじめまして

Nice to meet you! My name is Lauren Schwegler and I am the new Himi City Assistant Language Teacher. I am from around the city of Philadelphia, Pennsylvania, America. When I was a college student, I studied abroad at Akita International University, but this is my first time visiting Toyama Prefecture. I climbed Mt. Tate and it was amazing.

My hobbies are reading books and comic books, hiking, biking, and playing video games. I enjoy biking at night when the weather is cool. I love animals, especially cats. I have three cats in America. Their names are Socks, Zoey, and Lily.

I have been in Himi for about a month now and I feel lucky to work here. The ocean and mountains are beautiful, the people are kind, and the kids are enthusiastic. I was impressed by the speeches and plays of this year's Himi Speech Contest. I look forward to further working with the teachers and students in Himi.



よろしくおねがいします

※ひらがなは、ローレンの直筆です。

